

令和3年度 学校評価アンケート集計結果

保護者アンケート

児童アンケート

95.5%	学校は、子どもたちが行くのを楽しみと言える学校になっている。	①	学校へ行くのは楽しい。	78.8%
86.4%	学校は、児童の興味・関心を大切にし、学習意欲を高める取組をしている。	②	学校の勉強はよく分かる。	90.9%
90.9%	学校は、読み・書き・計算などの基礎的・基本的な学力が身に付くように指導している。	③	毎日、家で(学年×10分以上)の勉強をしている。	75.8%
72.8%	学校は、児童が主体的に学習に取り組む姿勢を育てるために、家庭学習の習慣化を図る取組をしている。	④	みどりの道や地域にでかけたり、地域の人から教えてもらったりする活動は楽しい。	93.9%
95.5%	学校は、みどりの道や地域の素材を活用したり、地域の人から学んだりする活動を取り入れ、ふるさとを愛する子どもの育成に努めている。	⑤	学校図書館を使って勉強することは楽しい。	100.0%
77.3%	学校は、学校図書館を活用した授業や、子どもたちが家庭でもすすんで読書をするような取組を行っている。	⑥	学校や家ですすんで読書をしている。	75.8%
90.9%	学校は、人権を尊重する意識を育てる取組を進め、思いやりの心を育て、温かい人間関係づくりに努めている。	⑦	だれにでも優しくするようにしている。	93.9%
77.3%	学校は、教育相談やアンケート調査などにより実態把握に努め、適切に子どもの相談にのったり、指導したりしている。	⑧	困ったことがあったとき、気軽に先生に相談できる。	75.8%
86.4%	学校は、道徳や社会のルールを守ろうとする意識やマナーの向上を図る取組を進めている。	⑨	学校のきまりを守り、安全に生活しようとしている。	97.0%
77.3%	学校は、子どもたちが元気のよいあいさつや返事ができるように取り組んでいる。	⑩	すすんで元気のよいあいさつや返事をするようにしている。	87.9%
81.8%	学校は、子どもたちが進んでそうじや当番活動を行えるように取り組んでいる。	⑪	給食当番や、そうじの仕事をすすんでしている。	97.0%
77.3%	学校は、子どもたちの体力向上を図る取組を行っている。	⑫	やる気まんまんタイムでたくさん走ったり、休み時間などにしっかりと体を動かして遊んだりしている。	81.8%
72.8%	学校は、「早寝・早起き・朝ご飯」など、よい生活習慣の定着を図る取組を進めている。	⑬	「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけている。	84.8%
81.8%	学校は、テレビやゲームなどメディアとの付き合い方を子どもたちが意識できるような取組を行っている。	⑭	テレビを見たりゲームをしたりする時間が多くならないように気をつけている。	72.7%
77.2%	学校は、災害や不審者への対応や交通安全の指導など、子どもの安全を守る取組をしている。	⑮	地震や火事が起きた時や、不審者に出あった時にどうしたらよいか知っている。	97.0%
72.8%	学校は、課外活動(陸上・水泳・体操・音楽会等)を通して、体力向上や音楽による表現力の育成をめざした取組をしている。	⑯		
86.3%	学校は、施設・設備の整備や掲示物等の学習環境整備に努めている。	⑰		
81.8%	学校は、いじめ防止や生活安全など、生徒指導上の課題への対応を迅速に行っている。	⑱		
81.8%	学校は、たよりや授業公開日等の開催により、学校の様子が分かるように、保護者や地域に情報を発信している。	⑲		
95.5%	学校は、PTA人権研修や人権教育に関する公開授業、校内人権週間など、人権課題・同和問題の理解と解決に向けての取組を進めている。	⑳		
77.3%	学校は、保護者や地域の声を大切にし、地域や社会の諸活動に積極的にかわり、地域に開かれた学校づくりを推進している。	㉑		

保護者の皆さんに「学校評価アンケート」にご協力をいただき、ありがとうございます。今回は、児童の結果と合わせ、お知らせします。上のグラフの数字は肯定的回答の割合(「とてもそう思う」「あまり思わない」「思わない」の選択肢のうち、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合)をパーセントで表したものです。また、質問項目①～⑮については、児童と保護者の関連のある質問項目として並べて表示しています。⑯～㉑は保護者のみの質問項目です。今年度も児童、保護者とも肯定的回答の割合は高くなっており、九割を超える項目も多くありました。保護者の「わからない」の回答が多かったため、八割を超える項目もありますが、特に緊急に対策を講じるべき事柄はないと考えます。

保護者の自由記述について

「先生と児童の関係が良く、保護者にも、とても丁寧に対応していただいている」、「子どもが楽しんで学校に行っているのが安心していただける」とも嬉しい記述が多数ありました。学校へのご意見がありましたので、紹介します。

一、ペーパーレス化を進めてほしい。↓まちこみメール等活用していきま

二、スクールバス内が騒がしいことがあるについては、指導しました。

三、コロナが落ち着けば、保護者と先生の距離が縮まる機会をもちたい。

四、保護者が参加できない活動の写真購入がしたい。↓難しいが、検討する。

五、始業式、終業式に給食ありにして、しごんぼに行けないか。↓今後も給食なしで考えていますが、検討していきます。

六、思っていたよりも「わからない」が多かったので、回答できるようにしたい。

七、いろいろな意見いただき、ありがとうございます。今後ともあらゆる教育活動の中で、全児童の心の居場所となる学校、絆づくりとなる学校を目指して取り組んでいきたいと思えます。

保護者と児童の意識の相違

保護者と児童の意識の相違について見ていきます。保護者、児童の両者とも肯定的回答が多かったのが、「学校の勉強はよく分かる。」、「みどりの道の活動は楽しい。」、「誰にでも優しくする。」、「学校のきまりを守り、安全に生活する。」、「給食当番や、掃除の仕事を進んでする。」です。児童の様子からも基本的な生活習慣や敬語がきちんと使える等、当たり前に行っていることがほとんどで、高山つりの良さだと感じます。逆に、両者とも低かったのが、「毎日、家で勉強している。」、「学校や家で進んで読書をしている。」、「困ったときに、気軽に先生に相談できる。」です。読書を含めた家庭学習の定着について、もう少し学校と家庭で一緒に考えていけたらと思います。また、なかなか気軽に先生に相談できないと感じている児童一人一人にもっと寄り添い、教職員の誰とでも話ができるような関係づくりや、話ができる場をつくってほしいと思います。保護者と児童の意識の違いとしては、「学校へ行くのは楽しい。」は児童はあまり高くないという結果でした。「進んで元気のよいあいさつや返事をしようとしている。」、「早寝、早起き、朝ご飯を心がけている。」、「地震や火事が起きた時や不審者に出会った時にどうしたらよいか知っている。」は、児童はできていたという意識が高いようです。

今回のアンケートの結果は、教職員の学校評価と合わせて、後日行われる学校関係者評価委員会、次年度に向けた取組の方向性を決める際の資料として活用します。